

WEEKLY SIGNAL

平成31年1月18日(金) 1458号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	1/21(月)	1/22(火)	1/23(水)	1/24(木)	1/25(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,000	+ 1,000	ト ン	ト ン	ト ン
財政他	△ 17,000	△ 1,000	△ 6,000	+ 1,000	△ 4,000
資金需給	△ 16,000	ト ン	△ 6,000	+ 1,000	△ 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M・1Y) 国債償還(変動15年)				国債発行(20年)
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,800 CP等買入 △ 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,700 CP等買入 + 2,500				
(日本)		日銀金融政策決定会合(23日まで) 営業毎旬報告(1月20日現在)	日銀金融政策決定会合結果 黒田日銀総裁会見 貿易収支(12月) 全産業活動指数(11月)	対外対内証券投資(1月13-19日)	消費者物価指数(東京都区部、1月)
(海外)	IMF世界経済見通し ユーロ圏財務相会合 米 祝日で株式・債券市場は休場 中国GDP(10-12月)	EU財務相理事会 世界経済フォーラム年次総会 米 中古住宅販売件数(12月) 米 卸売在庫(11月確定値) 米 建設支出(11月) 米 製造業受注(11月) 米 財政収支(12月) 米 住宅着工件数(12月)	米 FHFA住宅価格指数(11月) ユーロ圏 消費者信頼感指数 (1月、速報値)	米 新規失業保険申請件数(19日終了週) ユーロ圏 総合PMI(1月、速報値) ユーロ圏 製造業PMI(1月、速報値) ユーロ圏 サービス業PMI(1月、速報値)	ECB専門家予測調査 米 耐久財受注(12月) 米 新規住宅販売件数(12月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.060
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初386兆2,000億円から始まり、17日に5年債発行が行われて減少した一方、16日、18日には国債買入を主因に増加したため、385兆3,400億円で越えた。無担保コールON物は、積期最終日であったものの前週末(11日)程調達ニーズは高まらず、加重平均金利は前週末対比△0.04%の△0.062%となった。

新積期に入ると調達ニーズは減退し△0.08%台の割合が中心となったが、17日には試取りの動きが見られたことで、加重平均金利は△0.062%(前日比+0.006%)まで上昇した。ターム物は月内エンドのショートタームを中心に△0.04%近辺での割合が散見された。

16日にオファーされた国庫短期証券の買入オペのオファー金額は5,000億円となり、2018年9月20日以来のオファー金額となった。

来週は、国内では、日銀金融政策決定会合結果、展望レポート(23日)、海外では、IMF世界経済見通し(21日)、世界経済フォーラム(22日)などが予定されている。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.25 ~ △0.15
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約6,200億円で、週間償還額(約4,900億円)に対し発行超となった。発行市場は、5・10日発行と複数の業態からの大型発行が重なり、活況となった。17日時点での発行残高は、約20兆6,410億円と先週末(20兆3,763億円)から若干増加し、今月末残は21兆円近辺に達する事も考えられる。発行レートは、投資家の根強い運用ニーズにより0%のレンジで変わらず。CP等買入オペが、16日に2,500億円でオファーされた。前回から、間隔も短く対象銘柄も減少したこともあり、按分レート△0.002%・平均落札レート△0.003%と、いずれも低下した。

来週の償還総額(1/21~1/25)は、3,700億円程度となっている。発行市場は、期中のショートターム物を中心に案件増加し、発行超を予想する。発行レートは、投資家の購入ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺での出会いとなる。

<TDB>

今週の国庫短期市場は16日に実施された買入オペが5,000億円に増額された結果、需給の引き締めが意識され堅調な地合となった。17日入札の1Y808回債は、最高落札レート△0.1741%(前回債△0.1527%)、平均落札レート△0.1781%(同△0.1697%)と前回債から利回りが低下。18日入札の3M806回債も最高△0.1804%(前回債△0.1459%)、平均△0.1880%(同△0.1504%)と前回債からマイナス幅を拡大した。

週末のセカンダリー市場でも需要が強く、新発3M物は△0.210~0.195%程度、同1Yは△0.195%程度と入札水準より深いマイナス圏で買いが見られた。

来週は25日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.12%近辺から始まり、週末にかけて△0.15%~△0.16%まで低下した。短期1Yと3Mの発行が重なった21日受渡では、△0.13%台までレートが上昇した。SC取引では10年債351回債と352回債、5年債137回債のbidが多く、いずれも△0.10%台半ば~後半が出合いの中心であった。その他2年394・395・396回債、5年135・136回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・353回債、20年164・165・166回債、30年59・60・61回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。